

## 技術開発課題の取組状況

### ○コスト1/2を目指した誘導伐システム(帯状伐採による複層林施業)の開発

試験地の遠景



森林のもつ多面的機能の高度発揮を念頭に、モザイク状に誘導伐を実施するにあたり、①作業路と高性能林業機械による生産コストの低減、②植栽本数の低減や地拵えの簡素化による更新コストの低減、③耐陰性スギ植栽による下刈回数の削減、無下刈等による保育コストの低減について調査・分析しています。

### ○エリートツリーコンテナ苗と下刈等省力化実証試験



初期成長の早いエリートツリー(コンテナ苗)を植栽し、下刈の省力化を検証するとともに、秋植えと春植えの時期の違いによる成長量について調査・分析しています。

また、エリートツリーとの比較対象用として普通苗(コンテナ苗)も植栽し、調査・分析しています。

### ○シカネット設置後の効果検証及び被害の傾向と対策調査



直張り



斜め張り



寝かせ張り

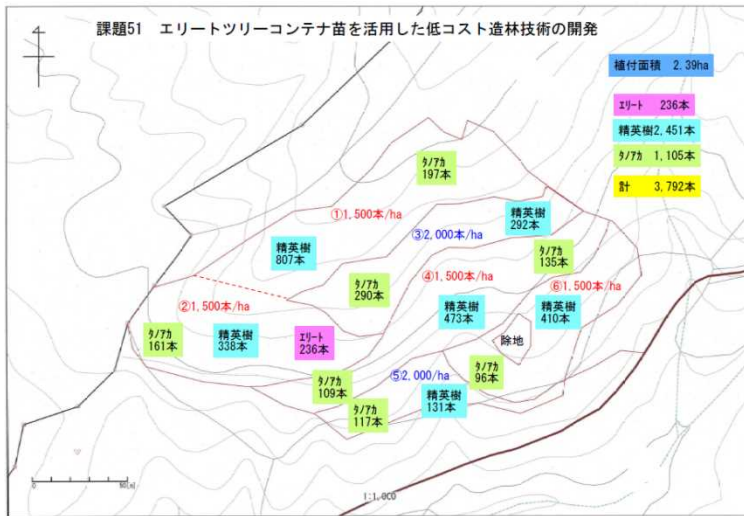


ハイトシェルター

ニホンジカについては、生息数の増大、加えて生息域も拡大しており、主伐・再造林が増加する中で、シカ被害対策経費の低コスト化が課題となっています。

各地域でいろんな方式でネットの設置がなされていますが、その後の維持管理等について、具体的な方法等が示されていないことから、効果的な設置と維持管理について調査・分析しています。

## ○エリートツリーコンテナ苗を活用した低コスト造林技術の開発 (下刈回数削減と現地適応性試験)



通常のスギ造林では、下刈回数は、年1回として5~6回程度実施されています。成長の優れたエリートツリーを活用して、通常より下刈を早く終わることができないか検証しています。

熊本森林管理署管内の吉無田国有林に15系統、宮崎南部森林管理署管内の和当地国有林に7系統のスギエリートツリーを植栽し、系統毎の成長量調査や現地への適応性について検証しています。



## (採穂による造林木への成長影響評価試験)



採穂直後の様子

主伐・再造林が増加する中、苗木不足を解消するため、系統管理された造林木からの採穂が、今後必要と考えられます。

九州地域においては、スギの苗木生産は挿し木により行われており、採穂による造林木への影響について調査しています。